

全国患者図書サービス連絡会会報

Vol.26 No. 1
(通巻 No.85)
June 2020

目 次

[投稿]

ありのままで寄り添う一ヒトとイヌの絆

神戸市在住 絹田 美苗…………… 1

[報告]

新型コロナウイルス感染症の感染拡大と当院での患者図書サービス

県立がんセンター新潟病院図書室 有田由美子…………… 6

高知医療センターなるほどライブラリの過去・現在・未来

高知医療センターなるほどライブラリ 橋田 圭介……………10

緑の中の図書館

闘病記図書館パラメディカボランティアメンバー (一宮西病院)

中島ゆかり……………17

[エッセイ]

ロンドン聖トーマス病院の Knowledge and Information Center

愛知淑徳大学名誉教授 山崎 茂明……………22

[お知らせ] 2019 年度決算報告・2020 年度予算計画 ……………25

[投稿規定] ……………27

[編集後記] ……………27

<投稿>

ありのままで寄り添うーヒトとイヌの絆

絹田 美苗 (神戸市在住)

はじめに

『ベイリーとさっちゃん Bailey and Sacchan』は、2017年に発行された絵本です。温かな桃色の表紙には、パジャマ姿のさっちゃんと、傍にはファシリティドッグのベイリーが寄り添い、彼女の匂いを確かめている優しいポーズが描かれています。



『ベイリーとさっちゃん』

さく：田村 朗 え：栗冠ミカ

発行：絵本「ベイリー物語」刊行実行委員会

出版：かまくら春秋社 2017.12

定価：1,600円＋税

『ベイリーとさっちゃん』のあらすじ

小さい頃に公園の犬にほえられて怖い思いをしたので、犬が苦手になったさっちゃんは、初めて大きなベイリーと出逢った時、もう怖くて思わずお母さんの後ろに隠れてしまいました。

しばらくしてベイリーが病室に来てくれるようになると、ご飯も沢山食べられて痛い検査を我慢できるさっちゃんになったのです。ベイリーの優しい目を見てみると「大丈夫だよ」と言っているように思えて、励まされて元気が出てきます。さっちゃんは、やがて手を伸ばして、仲良しのベイリーの身体に触れることも出来るようになってきました。

ベイリーの首を抱くと綿毛のように柔らかな毛がほっぺに温かく、真黒に光る鼻先はいつもヒンヤリ冷たく湿っています。

さっちゃんが不安だった手術も無事に終わることが出来ました。家族と離れた寂しい入院生活をベイリーが勇気づけてくれたのです。

指折り数えて待っていた退院する日が、やってきました。

病院の玄関では、優しい目をしたベイリーと仲間のアニーが見送ってくれ、さっちゃんは何度も小さく手をふるのです。

「ベイリーとアニーのいるびょういんは、きょうもあたたかです。」と、この絵本は結ばれています。

ファシリティドッグ

絵本に登場するベイリーとアニーは、ファシリティドッグです。

犬に手助けをしてもらう医療サポート・プログラムは米国が発祥です。子犬は、最初は

個人の家庭で愛情深く育てられ、厳しい訓練を受けてしっかり技術を身につけたら、医療スタッフとして病院に常駐します。そして闘病している子どもを元気づけてくれるのです。かけがえのない医療スタッフのファシリティドッグですが、当時（2017年）日本には僅か3頭しかいないのが現状でした。

このプログラムを受け入れる病院が中心となり、子どもと犬に負担をかけない環境作りをします。これには医療関係者やコーディネーター等の方々の尽力があって結実することがよくわかりました。

入院中の子どもが安心して生活空間で過ごしながらか闘病できることは、見守る家族や医療スタッフにとっても素晴らしい医療です。

実話を元に製作されたこの絵本がとても大きなメッセージです。

ヒトとイヌの絆

ヒトとイヌが互いの絆をつないだ長い歴史を紹介しましょう。今から3万年前の地球の北半球ユーラシア高原では、ヒトは遊牧しながら狩猟で生きていました。同じくオオカミも群れで狩りをしており、両者は同じ獲物を捕り合う敵対関係にあったのでした。

その野生のオオカミが長い世代を重ねるうちにヒトに近づき、やがて共に暮らすようになる従順なオオカミが現れたのです。

これがイエイヌ（家イヌ :Domestic Dog）、その遺伝子を比べると野生のオオカミとは98.8% という近縁で亜種ともいえます。

イエイヌはヒトの暮らしを守る代償に食料と棲家を提供されて飢える心配のない生活を手に入れたのです。こうしてヒトと互惠関係を結び、野生のオオカミから馴化されたイヌとなったのです。

世界中の地域で忠実な番犬であるイヌが共に暮らし始め、ヒトの食生活は安定し各地で文明が開化する先駆けとなっていくのです。

1万2千年前からヒトは農耕生活も始めて地域に定住し、そこでもイヌは農作物を守るための警備をするようになりました。

その後、遊牧民の畜産を助け、家畜の放牧には牧羊犬として統率する能力を発揮するようになります。他にも山や海における猟（漁）のパートナーとして大いに活躍します。ヒトはイヌに対して大きな信頼を寄せ、互いが強い絆で結ばれるようになったのです。

現代になると、走力や嗅覚の優れた身体能力を存分に発揮して、人間への協力を惜しむことなく貢献している犬たちがいます。

補助犬（盲導犬・聴導犬・介助犬）をはじめ警察犬、災害救助犬など世界中の人々に限らない恩恵を与えてくれています。

そして犬は、愛情のすべてを注いでくれる素晴らしい魅力を持っています。絵本に登場するファシリティドッグのベイリーのように、さっちゃんに寄り添って無垢な愛を伝えているのです。

『犬のふれあい教室』

私は獣医として高知県の保健所・衛生研究所に勤務し、公衆衛生が主な業務でしたが、動物行政も併せて担当していました。

毎年春の狂犬病予防注射は、町や村の公園や神社を巡回して行う業務で、桜の咲く元で1日中犬に囲まれ慌ただしいけど楽しかった思い出です。(現在、世界には400種の犬が5億匹もいるそうです)

一方で、地域のトラブルは『犬の苦情』として寄せられました。当の犬には罪もないのに飼い主と周囲の人間関係が原因で、結局は何も解決できないまま無力感に気落ちする日々でした。さらに辛いのは犬の遺棄や虐待そして殺処分という厳しい現実です。

そんなストレスの多い動物行政を担当する中で、土佐人らしく豪放で愉快的な上司から、あるプロジェクトの提案がありました。

「子ども時代に犬と仲良くなれば、大人になって動物愛護の精神を実践してくれるはず！」という思いを実践する出前授業『犬のふれあい教室』です。

希望する学校に犬と一緒に出前授業に出かけました。対象は幼稚園から中学生、多くは小学1～2年生だったでしょうか。

児童が大声で騒いだり急に犬を触っても、決して吠えたり噛みついたりしない従順で安全な『ふれあい犬』が必要になります。

高知県小動物管理センターの職員が優しく育てたのが黒いラブラドル(♂)の『ラブ』、ベージュのラブラドル(♂)の『アール』、そして雑種の『うらら』(♀)の3匹で、彼らは捨てられた引き取り犬でした。

そのセンターに住み、気立てが陽気で目の前の土佐湾にザブンと飛び込み楽しそうに泳ぐラブとアール、そしてどこか恥かしがり屋のうららは、立派なふれあい犬に成長してくれました。

彼らに加えて生後2ヶ月の子犬が必要です。聴診器で子犬の心臓音を聴いてもらい、「子犬はぬいぐるみじゃないよ。ほら、私達と同じ動物の仲間なんだ！」と身体全体で感じてもらうことが目的でした。

『犬のふれあい教室』を実施する前には、予め参加者の家庭にむけてアンケートを行いました。子ども一人一人の体調や心の準備をしたうえで参加できるかの確認が必要で、担任の先生にも協力してもらいました。

その他、紙芝居『イヌとヒトが出会った歴史』、『犬の正しい散歩』の寸劇、『もし怖い犬に出会ったら…どうする?』のペープサート(紙人形劇)と、次々にアイデアが湧き出ます。そのアイテムの製作には悪戦苦闘しましたが、私達スタッフにとっては何とも楽しい時間でした。

『犬のふれあい教室』のプログラム

『犬のふれあい教室』には細かいシナリオはなく、スタッフも獣医、保健師、栄養士、薬剤師と職種も様々です。当日、教室に入ると犬と私達がまず落ち着いてから、元気な挨拶

扱でスタートします。

① 紙芝居『イヌとヒトが出会った歴史』、犬と仲良くなるう

解りやすい紙芝居でイヌとヒトの歴史を理解してもらいます。

そしてふれあい犬が登場しますが、真っ黒で大きなラブに児童は怖がって近づこうとせず、歓声とため息で蜂の巣をつついた騒ぎです。やっと落ち着いた児童から犬の扱い方をマスターすると、首輪のリードを持ち、一緒にゆっくり歩くことが出来るようになるのです。その得意そうな顔は犬と仲良しになれた自信に溢れていました。

② みんなで心臓の音を聴こう

ムクムクの可愛い子犬が登場すると教室はまたまた騒然となります。子犬を順番に抱っこすると誰も満足りた笑顔となり、特に女の子はお人形を抱くような優しい表情になっているのです。

次は聴診器で子犬の心臓の音を聴くのですが、難しい手技なので、最後に拡声器で心音を大きくして全員で聴きます。できたら、ふれあい犬や自分の心臓の音も聴き比べてみることに…。

児童からは大人顔負けの反応が返ってきました。

- ・子犬やラブの心臓の音はドッキンドッキン聴こえ ビックリ！
- ・自分の心臓の音を初めて聴いた いつも動いていると分かった
- ・人間の自分より子犬の心臓の音の方がとても速かった

③ 寸劇『犬の正しい散歩』

ハプニングが続出する冷汗のライブ劇場でした。

うららが散歩中の犬の役で登場し、粘土で作った糞を道に置いたままで去ってしまう飼主に、全員が怒った大声で注意します。

- ・オンチャン、犬のウンコは持って帰らな、いかんぜ！
- ・袋や紙がない時は川にほおり投げたら、えいがよ～

(※ この珍答にはビックリ！ お祖母ちゃんから教わったそうで、確かに正解です。
昔、川は水洗トイレでしたから)

④ ペープサート『もし怖い犬に出会ったら…どうする？』

知らない犬に触るのはダメ！ 飼主さんに犬と仲良くできるか訊ねてみて、大丈夫なら触らせてもらおう。

もし知らない犬と出会ったら、落ち着いて犬を観察してみる。

今、この犬はどんな気持なのか考えてみよう。

- ・耳を後ろに倒し尻尾が下向きの犬、ホントは自分が不安なんだ
- ・ウーッと唸り鼻にシワ寄せ牙を見せる犬はすごーく怒ってる！ こんな怒っている犬は、怖いけど絶対に走って逃げないこと!! その目を見たまま、後ろ向きにゆっくり

犬から離れるんだ

- ・知らない怖い犬が来そうな時は、固まったままの電信柱になれ！ 例えオシッコをかけられてもネ（笑）

5 教室での「犬のふれあい教室」はこれでおしまい

さあ、運動場でボールを投げたり、一緒に走ったり好きなことして、ラブやアール、うららと遊ぼうよ～。

以上が『犬のふれあい教室』です。

運動場で犬と夢中になって遊ぶ子ども、そして犬も躍動している嬉しそうな様子は今も鮮やかな記憶です。

出前授業の後には、児童の感想が保健所へ届けてもらえるのです。どの感想文にも「楽しかった、犬が大好きになった！」と綴られて、真っ黒なラブが大きな口で笑い、アールがうたた寝をしていたり、うらが運動場の木陰で隠れんぼ…そんな可愛い絵画が沢山添えられていました。

おわりに

下の写真は15年前の若い私です。

撮影したカメラマンは『犬のふれあい教室』の出前授業に訪れた養護学校の男子児童。教室での授業は短目に切り上げて運動場に出ると、ふれあい犬と一緒に遊べる楽しい時間になりました。

業務記録に残すため、いろんな場面で撮影をしていた私に興味を持ったらしい彼、自分でカメラを持ち撮影したいと申し出たのです。

早速カメラを受け取ると、プロのように構え「ハイ、チーズ！」と笑いながらシャッターを押してくれました。失礼にもその時の私は「ピンボケになったかも？」と思いました。いやいや、ところが、優しい雰囲気写真に写してもらって、生涯の宝物になっているのです。

実はこの写真の横には、もう1人男児がアールと草むらに寝転んでいるのです。彼は教室でも寮でも言語を発することのない先天性疾患を背負い、意思の疎通や自己表現が苦手な児童でした。

運動場に出た彼は草むらでうたた寝をしているアールに近づくと、ゆっくり腕を回してその首に自分の顔を埋めたまま動かないのです。そっとのぞくと、彼は嬉しそうに微笑んでいたのです。それこそ、ありのままで…寄り添うヒトとイヌの穏やかな姿でした。

時は過ぎゆき、出前授業を受けてくれた児童はそのまま成長して大人になり、立派に生活していることでしょう。

あの時の数々の屈託のない笑顔は、再び犬と出会って幸せな時間を過ごしていると信じています。



<報告>

新型コロナウイルス感染症の感染拡大と当院での患者図書サービス

県立がんセンター新潟病院図書室

有 田 由美子

1. 新型コロナウイルス感染症の感染拡大概要

2019年12月以降、中華人民共和国湖北省武漢市において新型コロナウイルス感染症の発生が報告され、対岸の火事と思っていたものが、あっという間に韓国、日本及び世界各地に広がっていきました。2020年1月31日にWHO（世界保健機構）は中華人民共和国湖北省武漢市における新型コロナウイルス関連肺炎の発生状況が「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」に該当すると発表しました。

新潟県では2月29日に1例目の発症があり、クラスターも発生しました。5月15日82例目となり、以降件数は増えていません。

国内の緊急事態宣言は4月7日に7都府県に、16日には全国に緊急事態宣言がだされました。新潟県ではまだ47例目でした。その後、5月14日に全国39県は緊急事態宣言が解除、21日には近畿の2府1県、25日に1都3県で全て解除されました。

2. 当院の様子

当院では院内一斉メールで、新型コロナウイルス感染症対策のお知らせが届きます。その一部と患者図書サービスの状況も加えて表にしました（表）。

ボランティア活動は2月末から休止が続いています。5月14日に緊急事態宣言は解除されましたが面会規制を継続しており、ボランティア活動も慎重を期して6月末まで休止となりました。昨年はインフルエンザの流行が市内で多く発生し、病棟での活動は1月中旬から下旬まで2週間程度休止しました。今回は4か月になろうとしています。このような中での、患者図書サービスの状況について書きとめました。

当院の患者図書サービスは3種あり、小児病棟での絵本の読み聞かせの「あかね文庫お話し会」、分かりやすい医学書と娯楽書の貸出を行う外来棟の「からだのとしょかん」、そして「あかね文庫」ではベッドサイドを巡回して娯楽書の貸出と、病棟や外来の書架に娯楽書を設置する活動をしています。

休止期間中患者さん達からは「本を読む楽しみが減ってしまい、とても残念。さみしい」「病棟の本棚の本がずうっと同じでつまらない」との声をいただきました。

ボランティアさんからは活動休止中も、書架の整理や貸出票を回収して欲しいと電話をもらい、活動ができず記入済みの貸出票がたまっているのではないかと気をもんでいる様子でした。2月下旬から5月下旬までの様子を紹介します。

2月19日 あかね文庫お話し会、小児科病棟での絵本の活動は毎月第1～3水曜日のため、

この日以来休止となりました。ボランティアさんの提案で絵本の分類と登録を病院スタッフと協同で進めていましたが、絵本は小児科病棟のプレイルームに備え付けのため、入棟して絵本を図書室に持ってくるのははばかられ、中断しています。

2月26日 からだのとしょかんボランティア活動最終日。この頃全国での感染者数は164人となっていました。まだ新潟では感染者がでていないこともあり、病院ではこのまま食い止めるためにも活動は休止が望ましいという声が出ていました。

2月27日 あかね文庫ボランティア 病棟での活動最終日。この日は新潟市の公共図書館からいただいてきた古い雑誌を整理して、院内10か所の本棚の冬の雑誌(12～2月号)を春の雑誌(3～5月号)へ交換をおこないました。

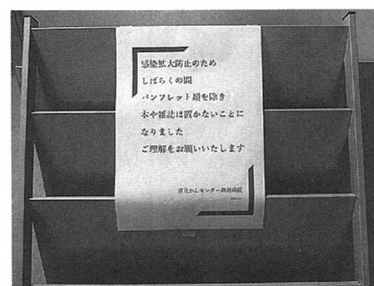
2月28日 この日から完全に病院中のボランティア活動が休止され、からだのとしょかん閉室の掲示をしました。本の貸出はできませんが、パンフレットを入り口前に設置して自由に持ち出せるようにしました。これまでは見本を置いて、中で欲しいものを受け取る形でした。パンフレットは国立がん研究センターのがんの解説など、主要なものにしました。週1回は各種増刷が必要で患者さん達が見に来てくださっていることがうかがわれました。



3月26日 あかね文庫ボランティアリーダーは年度替わりのためリーダーの引継ぎの必要もあり、安全管理室からリーダー達の活動の許可をもらいました。リーダーは3人ずつで合計6人が参加し、引継ぎの他、病棟書架の整理と、貸出票の回収・集計もしてくれました。

4月9日 広報紙『からだのとしょかん通信』60号完成。院内に配布、ホームページにアップしました。<http://www.niigata-cc.jp/facilities/karadaTosyoTuushin.html>

4月24日 外来に設置したあかね文庫の娯楽書を書棚から撤収しました。張り紙を掲示して早く収束することを祈りました。



3月のリーダー引継ぎ時に、リーダーだけ月1回本の整理に来ようと決めてくださっていましたが、緊急事態宣言がでてSTAY HOMEが呼びかけられているため中止にしました。

ボランティアさんの活動はできず本の貸出もできませんが、『からだのとしょかん通信』を発行し患者さんに情報を発信することはできる！と、担当職員達で1年間の内容を検討し計画をねりました。

4月30日 入院患者さんがからだのとしょかんの本を借りたいと、正面玄関ホールにある総合案内にどうすればいいのか尋ねてきてくれました。その時だけ開室して貸出をしました。「入院中は本だけが楽しみなのにねえ」とおっしゃっていて、私もほんとに心苦しかったです。

5月1日 昨日の患者さんからまた貸出の希望があり、その時だけ開室して貸出をしました。「もうすぐ退院できるんだ」とおっしゃっていましたが、沢山借りていってくださいました。

ボランティアのリーダーから電話があり、病棟の書棚の貸出票があふれていないか心配とのことでした。職員が集めてきて集計をするから安心してくださいと伝えました。毎回の活動時に集計し、月ごとにまとめてくれています。集計表に4月分を加えておきました。これまで娯楽書についてはほとんどボランティアさんたちにお任せしていましたが、このように気にかけてくださり、きめ細かく活動してくれていた事を改めて認識しました。

5月7日 からだのとしょかんの活動開始日は未定ながら、当番表がなければ活動できないため、6月と7月の都合をうかがうお便りを発送しました。返信にはボランティアさん達から「早く活動したい!」「これまでの日常生活の有難さよ」等のメモが入っており、これからの活動への意欲をひしひしと感じました。

5月14日 病院はボランティア活動の休止を6月末まで延期としました。

5月15日 病棟あかね文庫の書架整理、貸出票回収と設置を職員がおこないました。

5月20日 あかね文庫お話会のリーダーから電話があり、6月も活動休止をお伝えしました。そして、広報紙「おひさまだより」の作成を依頼しました。絵本は病棟のプレイルームに設置してあり子供たちはいつでも読めます。なので、いつものように絵本の紹介をしてもらいたいとお願いしました。

5月22日 からだのとしょかんボランティアさん達に、6月活動休止のお知らせも入れて、7月の当番表を発送しました。しかし、活動を開始できるかは未定です。

5月26日～ からだのとしょかん、蔵書点検開始。この機会に蔵書点検を開始しました。

ボランティア活動が休止されて、直接患者さんたちに本を手渡すことができなくなりました。職員でできることは、パンフレットの設置、広報紙作成、蔵書点検などでした。第2波、第3波が懸念されており、元のように自由に活動ができる日がすぐに戻ってくるとは思えません。「新しい生活様式」でのボランティア活動は・・・もしかしたらフェイスシールドをして貸出するのかな、などと想像しています。

(2020年5月29日記)

表1 新型コロナウイルス感染症を取り巻く状況

年月日	社会状況	病院の対応(一部)	患者図書サービスの状況
2019年12月	中華人民共和国湖北省武漢市において新型コロナウイルス感染症の発生		
2020年1月	1/30 WHOが中華人民共和国湖北省武漢市における新型コロナウイルス関連肺炎の発生状況が「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」に該当すると発表		
2020年2月	2/1 日本政府は新型コロナウイルス感染症は感染症法に基づく「指定感染症」に指定し、また検疫法に基づく「検疫感染症」に指定した 2/25 厚生労働省が「新型コロナウイルス感染症対策の基本方針」を示す 2/27 厚生労働大臣がテレワーク等の積極的取組を呼びかけ 2/28 文部科学大臣が全国小中高等学校等一斉休業の要請	2/3 新型コロナウイルス感染症対策本部 設置 2/10 サージカルマスクの使用制限 2/20 面会制限開始 2/28 病院全体のボランティア活動休止	患者図書サービス ボランティア活動が最終となった日 あかね文庫お話し会 2月19日 からだのとしょかん 2月26日 あかね文庫（全員での活動） 2月27日 2/28 からだのとしょかんの入り口に閉塞張り紙（写真1）
2020年3月	3/11 WHOは新型コロナウイルス感染症の流行をパンデミックとみなせると発表 3/13 新型コロナウイルス特措法が成立	3/4 サージカルマスク 使用制限の強化 患者に直接接しない職員は自前でマスク調達	3/26 あかね文庫ボランティアリーダーのみ活動 病棟書架整理（雑誌の春もの入れ替え）とリーダー交代の引継ぎ
2020年4月	4/7 7都府県に緊急事態宣言 4/16 全国に緊急事態宣言 5月6日まで	4/8 個人防護具着脱トレーニング開始（関連職員のみ） 4/15 職員の対応調達 1) 37.5度以上の発熱の場合は1週間自宅待機 2)非常事態宣言地域への移動原則禁止（公私とも） 3)非常事態宣言地域の業者の来院原則禁止 4/16 紹介患者の受け入れ制限 外来診療の縮小、外来患者のトリアージ、受診間隔の延長 4/22 面会・付き添いの規制、電話再診 4/28 新型コロナウイルス感染症疑似症患者の入院基準・隔離体制の解除基準 4/30 既存の病棟を疑似症患者専用病棟に運用変更	4/9 広報紙『からだのとしょかん通信』60号完成、院内配布、ホームページにアップ 4/24 外来の書棚から書籍の撤去（写真2） あかね文庫リーダーによる病棟書架整理作業が中止 4/30 からだのとしょかんに入院患者さんから貸出希望あり貸出す からだのとしょかん通信の年間計画作成
2020年5月	5/4 国内感染者数 15,084人に。全国対象のまま緊急事態宣言 5月31日まで延期 5/14 全国39県緊急事態宣言解除 5/21 大阪府、京都府、兵庫県緊急事態宣言解除 5/25 首都圏の1都3県と北海道緊急事態宣言解除	5/1 救急外来のゾーニングなど対応策 5/14 ボランティア活動の休止が6月末まで延期 5/30 専用病棟を解除し、専用病室のみ継続（6/1から）	5/1 からだのとしょかんに同じ入院患者さんから貸出希望あり貸出す 病棟のあかね文庫の書棚貸出票集計 5/7 からだのとしょかん当番表作成のための都合伺い発送 5/20 あかね文庫お話し会リーダーに広報紙『おひさまだより』の作成依頼 5/15 病棟のあかね文庫の書架整理、貸出票回収と設置 5/22 からだのとしょかんボランティアに7月当番表を発送 5/26～29 からだのとしょかん 蔵書点検開始

<報告>

高知医療センターなるほどライブラリの過去・現在・未来

高知医療センターなるほどライブラリ

橋田圭介

I. はじめに

「なるほどライブラリ」は高知県・高知市病院企業団立高知医療センター（620床）にある患者図書室と医療従事者用の医学図書室を一緒にした図書室です。利用者が各種の疑問に対して資料を利用し知識を得て「なるほど」と納得していただけるようにと名付けられています。当院は高知県立中央病院（400床）と高知市立市民病院（410床）が統合して、高知県の地域医療の拠点病院として平成17年（2005年）3月1日に開院しています。開設主体は高知県・高知市病院企業団という自治体組織で予算や職員数は県内では高知県、高知市に次ぐ規模です。開院当初は県立と市立の病院が統合したことや国内初の病院PFI（Private Finance Initiative）事業の導入もあり、注目を集めていました。けれども病院PFI事業については5年後の平成22年（2010年）3月で契約を解消し、現在は高知県・高知市病院企業団の直営病院となっています。

当会報には過去2回、14巻第2/3号（2007）と21巻第1号（2014）に「なるほどライブラリ」の紹介記事を掲載していただきましたが開院以来15年経ち、私も定年退職からの再雇用期間を終え非正規職員となりましたので、これまでの歩みと今後についてご報告させていただきます。

II. 前史

患者図書サービスは統合前の平成9年（1997年）6月から高知県立中央病院でボランティアと病院医学図書室職員により病棟巡回活動で開始しています。

これは平成9年（1997年）1月に高知県知事が県職員に対して3億円の予算で職員提案事業を募集することになり、病院から図書委員会の提案として「患者図書サービス」で応募し採用となり予算を頂きました。この予算でボランティア控室兼書庫を整備し図書も購入し寄贈を含めて2,500冊で巡回サービスを始め週1回ブックトラック2台で各階の談話室にて貸出を行い40名程の利用がありました。子供さん用には小児病棟にあったプレイルームに書架、閲覧机、図書1,000冊を購入し図書コーナーを設けました。当時マスコミの取材でこのサービスを貨物自動車のトラックに本を積んで県内の病院を回るのかと誤解され、移動図書館と間違われたことを思い出しました。

当初は娯楽的な本だけを提供していましたが平成12年（2000年）からは食事療法・健康図書の提供も始めました。この患者図書サービス開始についての詳細はボランティアの方が当会報4巻第2号（1997）に書かれていますのでご覧ください。

Ⅲ. 高知医療センターなるほどライブラリ

高知医療センターの基本理念は「医療の主人公は患者さん」で図書室は「なるほどライブラリ」という名称があり当院の基本目標である「医療の質の向上」と「患者さんサービスの向上」のために活動しています。職員用の医学図書室と患者用図書室が一体化して、開院当初は病院企業団職員の司書1名とPFI事業の特定目的会社の社員1名で運営していましたが、PFI事業契約の解消で病院企業団職員2名となり、今年度は正規職員の司書1名と非正規職員の司書2名、事務補助員1名の計4名で担当しています。利用対象者は職員と患者さん及び県民・市民で大人も子供もどなたでも利用できる図書室です。病院の2階外来エリアにあり近くには医局もあって誰もが利用できる分かりやすい場所にあり面積は230㎡です。蔵書は米国医学図書館分類法で分類した医学書6,219冊のほかに患者用として日本十進分類法で分類した一般図書7,651冊と絵本・紙芝居・マンガ本・文庫本・新書など10,712冊は別に分類して合計24,582冊を開架しています(表1)。蔵書はこのほかに外部倉庫に約30,000冊の医学書・医学雑誌製本を所蔵しています。古い物では1916年からのバックナンバーがあり、全国の病院図書室との相互利用に役立っています。

病院の建物自体は免震構造ですが、南海トラフ地震に備えて書架は床固定し更に転倒防止器具を取り付けています。歩行困難な方への配慮として書架間の通路は十分な広さを取り、一番利用の多いマンガ書架の通路は「IFLA病院患者図書館ガイドライン2000」に記載された図¹⁾を参考資料とし車椅子同士、歩行器や松葉杖がすれ違いできる190cm幅です。南北2か所の入口も220cm開く全面ガラスの自動引き分け戸で、ガラスにはぶつからないようにマークシールをつけています。床はOAフロアで電源コードや通信線が表に出ない全面フラットの床で閲覧部分はカーペット、書架部分は竹フローリングとなっています。

利用者用のインターネット端末は5台あり自由に利用できます。

1) 医療の質の向上

開院当初から医学資料に関しては電子図書室を目指しています。外国雑誌については電子ジャーナル約3,200タイトルをパッケージや単体で契約し印刷体での購入は現在では1誌のみとなっています。国内雑誌については電子ジャーナル約1,400タイトルを契約し印刷体は94タイトルを購読しています。医学書籍については約4,500冊を電子書籍として契約しています。勿論これらの資料は職員だけでなく患者さんも利用できます。

書籍については最新の医学情報を入手出来るようにと、書店の協力により図書室内で年2回新刊医学書の展示会を開催しており、医学書を扱う書店が少ない当地では毎回1,000冊以上の医学書を実際に手に取り内容を確認できる絶好の機会となっています。こちらも患者さんの参加は自由です。

2) 患者さんサービスの向上

職員と患者さん共用の図書室ですので、医学資料は誰でも見ることができます。けれども医学専門書は患者さんにとっては難解な物が多く、また貸出はできないため患者さん向けには分かりやすい健康・医学書を約1,500冊揃え貸出用としています。

子供さん用には絵本・児童書コーナーを設け、カラダや病気についての絵本も置き、更に特徴を出すために「しかけ絵本」を約 80 冊購入し所蔵しています。また、伊藤忠記念財団の「子ども文庫助成事業」へも応募し平成 19 年度に子どもの本 100 冊の寄贈を受けました。

来室出来ない患者さんのためには病院ボランティアの活動として週 1 回病棟巡回サービスを行っており、これには図書室職員も同行しています。

患者さんへの貸出のために利用票を作成していますが番号だけで個人名の記載はしていません。図書システムにも誰が何を借りたかなどの情報は残らないようにしてプライバシーには配慮しています。

3) 利用状況

平成 17 年度（2005 年度）から平成 31 年度（2019 年度）までの 15 年間の利用状況を見ると、平成 17 年度の患者・一般利用者は 15,009 名で、平成 18 年度の 15,221 名をピークに平成 25 年度から 12,000 名台となり平成 31 年度（令和元年度）には今までで最低の 10,571 名となっています（図 1）。ただし令和 2 年 2 月から 3 月は新型コロナウイルス感染症の影響で来院者数が大幅に減少しており特殊な状況下での数字となっています。

職員を含めた貸出利用者数と貸出冊数は平成 17 年度 4,165 名、20,579 冊で利用者のピークは平成 29 年度の 5,102 名、貸出冊数のピークは平成 19 年度の 22,035 冊で平成 31 年度（令和元年度）は 4,450 名、19,436 冊となっています（図 2）。貸出冊数の大半はマンガ本です。こちらも今年の 2 月から 5 月現在までボランティアによる病棟巡回サービスを中止しておりそのため利用減となっています。

インターネット用端末は開院当初から 5 台を置いています但し利用状況は平成 18 年度の 2,374 名をピークに年々利用者が減少し、平成 30 年度は 871 名、平成 31 年度（令和元年度）は 781 名とピーク時の 1/3 程に利用者が減少しています（図 3）。利用者減の原因としては図書室の端末を利用しなくても個人でどこからでも利用できるためと考えられます。総務省の令和元年版情報通信白書の「情報通信機器の保有状況」を見るとスマートフォンの世帯保有率は 2010 年 9.7%だったが 2013 年 62.6%、2018 年 79.2%となりスマートフォンが爆発的に普及しています。更に当院は今年 4 月から無料 Wi-Fi 環境を整備しましたので図書室のインターネット端末の利用率は下がり続けると思われれます。

4) 他機関との連携

公共図書館や大学図書館からはリサイクル本等を譲り受け当室の一般図書や児童書の蔵書構成で弱点となっている分野を補強しています。また公共図書館からはテーマを決めて関係図書を借り受け企画展示も行い希望者には貸出をしました。利用者の多かったテーマは郷土史関係で「高知の歴史・偉人」でした。

当室からの協力としては公共図書館の新たなサービス「課題解決支援サービス」のなかの医療健康情報サービス提供に伴い県立図書館・市立図書館司書の研修を行い、それぞれ 1 カ月の期間で当室に通っていただきました。

ここ数年は 9 月の「がん征圧月間」に県下の図書館、病院を含めた図書室と「図書館発！

高知家のがんと向き合う月間」としてがんに関する本やパンフレットの連携展示を行っています。

県内の博物館・植物園等とは患者さんサービスの一環として企画展の資料や動画を借り受けて、博物館まで外出することができない患者さんのため図書室前での展示を行いその際には関連図書も紹介して利用者増に繋げています（図4）。

IV. 今後について

今後のサービスについては情報機器の進歩により大きく変化していくと考えます。特にスマートフォンの普及は患者図書サービスに大きな影響を与えています。スマートフォンさえあれば本、マンガ、雑誌を無料で読むことや本を読み上げるサービスまであります。定額で対象の本、マンガ、雑誌読み放題のサービスもあり、更に映画やドラマ、音楽なども無料、定額で配信するサービスがあります。公共図書館でも電子書籍の貸出サービスが始まっています。

院内での娯楽的な環境は患者さん個人で対応できるようになっています。

数年前に電子書籍リーダーを購入しました。これは文字サイズを変えることができるので弱視の方用にと導入しましたが現在ではスマートフォンでも同じことができ現在では利用がほとんどありません。

今年から院内に無料 Wi-Fi 環境が整備されましたのでスマートフォンでのインターネット利用がますます増え娯楽的な意味での図書室資料の利用者は減っていくと考えます。来室した方が座席で本を読むのではなくスマートフォンを操作する姿も見受けられます。

このような状況から、院内に娯楽的・文化的な雰囲気を持ち込みたいと始めた患者図書室ですが、個人的には医療・健康図書室に特化するべきだと考えます。

もちろん情報機器に対応できない高齢者や子供のための本はある程度必要ですので徐々に蔵書構成を変える必要があります。

医療・健康図書の提供に際しては不採算部門としての予算の獲得が課題となります。1冊の本に対して将来にわたり予算獲得が必要な場合もあります。例として当室で購入の4タイトルを示します（表2）。各タイトルの内容が改訂される度に購入していますが早いものでは2年で改訂され、この4タイトルだけで21回の購入となっています。患者さんにとっての医療・健康図書は最新が最良であり改訂の度に購入し入れ替えています。

将来を見据えてサービス内容、サービス対象者、予算を考慮して今後の患者図書室の方向性を決めていければと思います。

V. おわりに

今年の4月から人事異動で「オーテピア高知声と点字の図書館」から司書が高知市から派遣されて正職員として勤務しています。これにより「オーテピア高知声と点字の図書館」の点字・録音図書等のバリアフリー図書の利用や見えない方見えにくい方へのサポート情報の提供や「オーテピア高知図書館」等の公共図書館との連携が進むことを期待しています。

参考文献

- 1) 国際図書館連盟 (IFLA) ディスアドバンティジド・パーソンズ図書館分科会作業部会 (日本図書館協会障害者サービス委員会訳). IFLA 病院患者図書館ガイドライン 2000. 東京: 日本図書館協会; 2001

分類	冊数	分類	冊数
0類 総記	25	文庫本・新書	2,319
1類 哲学	275	児童書	347
2類 歴史	501	絵本	1,112
3類 社会科学	676	紙芝居	238
4類 自然科学	120	マンガ本	6,696
医学	1,511	合計	10,712
5類 技術	563		
6類 産業	237		
7類 芸術	755		
8類 言語	68		
9類 文学	2,920		
合計	7,651		

表 1. 患者用図書の蔵書構成 (2020年5月現在)

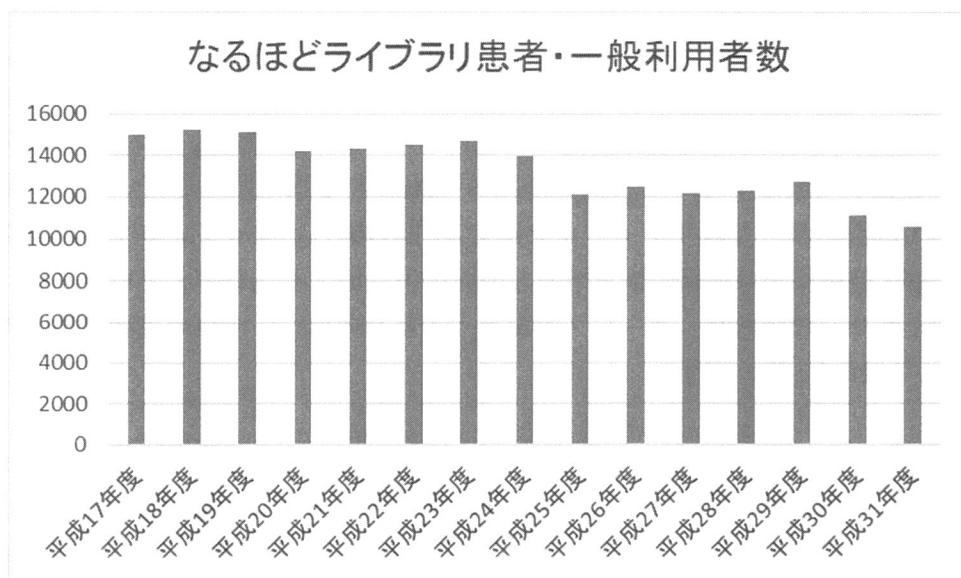


図 1. なるほどライブラリ患者・一般利用者数

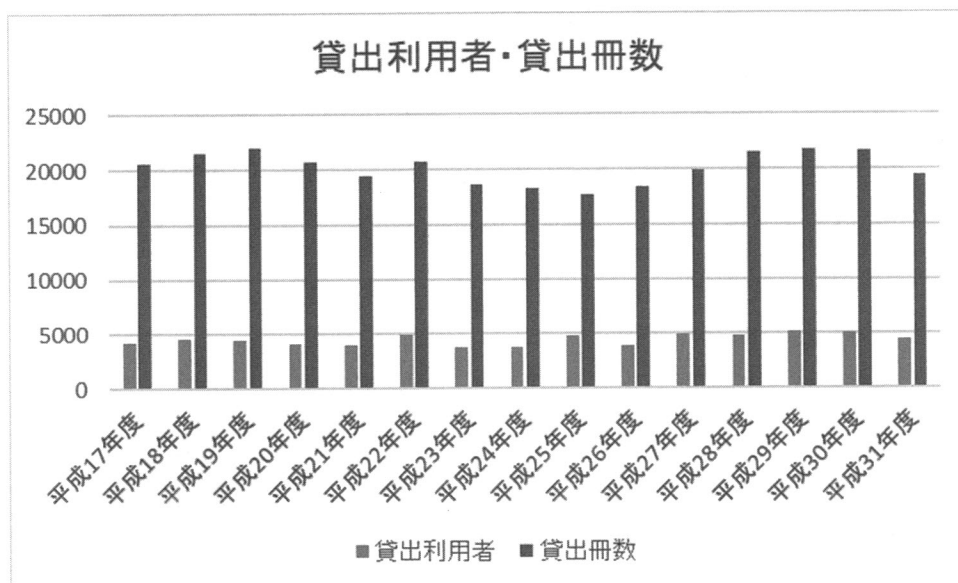


図2. 貸出利用者・貸出冊数

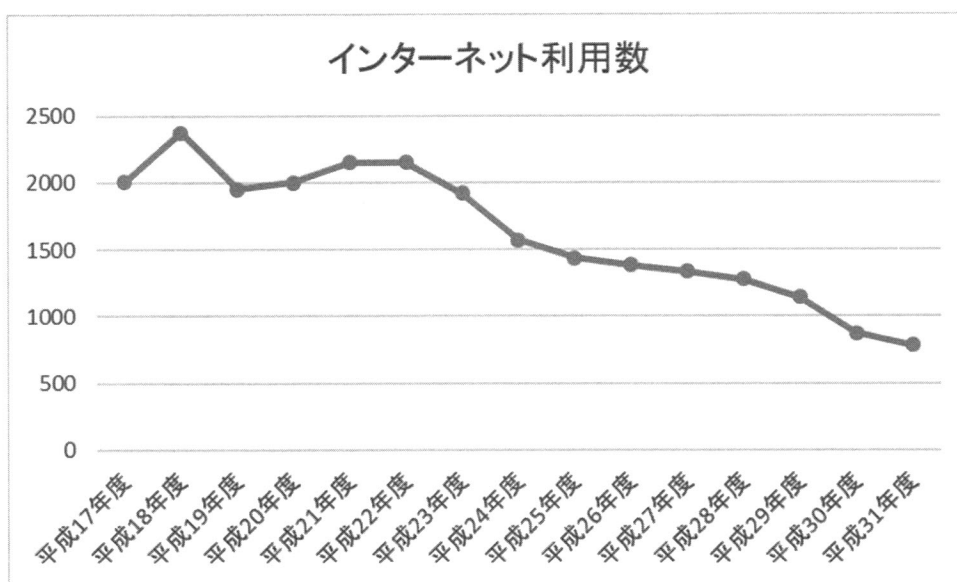


図3. インターネット利用者数



図 4. 横倉山ネイチャーフォト展

書名	第 1 版	第 2 版	第 3 版	第 4 版	第 5 版	第 6 版
病気がみえる Vol.1 消化器	2001.4	2006.3	2008.3	2010.4	2016.3	2020.4
病気がみえる Vol.2 循環器	2003.6	2008.3	2010.8	2017.3		
病気がみえる Vol.3 糖尿病・代謝・内分泌	2004.6	2008.4	2012.3	2014.9	2019.1	
患者さんのための乳がん診療ガイドライン	2006.7	2009.7	2012.6	2014.7	2016.6	2019.7

表 2. 患者用図書の改訂頻度

<報告>

緑の中の図書館

闘病記図書館パラメディカボランティアメンバー（一宮西病院）

中 島 ゆかり

新緑の美しい季節になった。伊豆の小高い山の中腹に別荘地がある。闘病記図書館パラメディカは緑の中に建っている。今年の筍のシーズンは終わってしまったけれど、去年は庭で取れた筍を、メンバーのお母さんの存在のみちねえさんが美味しく炊いてくれて、みんなで食べた。ここにある本は、闘病記専門書店パラメディカの店主である星野史雄さんが収集したものだ。簡単に「収集」という言葉で片付けるのは申し訳ないくらいの労力をかけて集められた本たち。いまは、ひっそりと来館者を待っているが、この本たちの向こうには広い広い星野ワールドという宇宙が広がっている。現在、闘病記図書館パラメディカを運営しているのは、NPO 法人わたしのがん net。私はまだお手伝いとして関わり始めてから日が浅いが、ここに集まる方々はみんな温かい。なぜ、私がパラメディカの仕事に関わるようになったのか、少しでもお話させて頂きたいと思う。

きっかけは、図書館で開催していたがんサロンだった。がんサロンの主催者の一人である杉浦さんと、NPO 法人わたしのがん net の代表、横川さんが知り合いで、私はすでにその図書館を退職していたが、杉浦さんは元より、ほかのメンバーの方からも「横川さんという人が連絡をとりたいて言ってるよ」という知らせがあったのだ。元来、引っ込み思案で用心深いので、テレビ局のプロデューサーをやっているような人は、怪しい人に違いないと思って、しばらくほかっておいた。しかし、職場のリハビリテーション科新入職員の研究発表会を見学させてもらい、若い人たちの純粋な思いに触れたことで、自分でも何かを始めてみたい気持ちがむくむく盛り上がり、気づいたら頂いた名刺のメールアドレスに、メールを送っていた。それがすべてのはじまりだった。

お会いするまでは、横川さんがなぜ私に興味を持ってくれたのか、謎だった。かつての勤務館で作った棚（書架）を見て、興味を持ってくれたと聞いた。この棚には、何度も人につないでもらっているな、と改めて思った。

勤務館であった多治見市図書館の取り組みは、少しばかり事例報告をする機会を頂いたので、詳しくは公開されているデータをご覧いただければと思う。簡単に説明すると、20年ほど勤務している間に医療健康情報コーナーを担当して、基本の蔵書構築のほか闘病記文庫、家庭介護、鈴と小鳥文庫などの棚作りを手がけた。担当が日本十進分類法(NDC) 3類と4類だったことも幸いし、通常ならば、別の分野に分類される本たちを、思い切って医療健康情報コーナーに集約した。自由度が高いことが、他の図書館と違うところかもしれない。独立したコーナーで初めに手がけたのが闘病記文庫で、それは県立多治見病院の患者図書室とセットになっている。県立多治見病院がNPO 法人医療の質に関する研究会の患者図書室プロジェクトに選出され、その選考理由のひとつが、公共図書館との連携

だった。最初は、人と人からのゆるいつきあいから始まった連携が、広がりを増して、今も広がり続けていると感じる。前述の図書館でのがんサロンの開催も、県立多治見病院の看護師さんが見つないでくれたご縁だ。

病院以外の場所を探していた人たちと、がんサロンをいつかは図書館で、と思っていた図書館員との出会い。人と人が出会うのは、不思議な力が働くのかなとたまに思うことがある。でも、よくよく考えてみれば、人が人をつないでくれるのだと気がついた。

闘病記文庫を手がける時、時間も人員も費用も最小限で、大海原に漂う小さな筏で漂流しているようなものだった。その筏を新しい島に導いてくれたのが、星野さんがHP（ホームページ）に公開してくれていた闘病記専門書店パラメディカのリストだった。闘病記は日本十進分類法（NDC）では分類仕切れていない分野ではないかと思う。NDCは本来自由度を備えているけれど、実際に活用されることは少なく感じる。特に闘病記は、タイトルからは病名に辿り着けないことが多々あるため、いかに分類するかが重要になる。

闘病記は主に916のルポルタージュに分類されている（生業別のこともある。野球選手は野球に、女優は演劇に）が、ルポルタージュの全てが闘病記ではないし、ましてやその中で疾患別になっているわけではない。内容について検索出来る目録というものはあるが、MARCなどの目録システムの注記には大まかな分類しか入力されていなかった（かつての話なので、今は改善されているかもしれない）。直腸がんも虫垂がんも、注記事項には「大腸がん」と入力してある。間違いではないけれど、多くの直腸がんの人は虫垂がんの話が知りたいのではなく、直腸がんの話が知りたいのだ。知りたい人がいる限り、なるべく細分化したほうが良いに決まっている。それが出来ないのはなぜか、労力の問題もあるかもしれない。自分でやってみてわかったが、途方もない作業なのだ。置いてある場所の話や内容検索の話も途方に暮れてしまう要因だが、闘病記の多くがタイトルからは探せないことが大きな要因だと思う。タイトルに病名が含まれていることもあれば、まったくわからない場合もある。それを一冊ずつ読んで、確かめる必要がある。闘病記らしき本だとあたりをつけて図書館の棚から抜き出した本は、それだけで数百冊あった。大海原の中を漂う筏の表現も、あながち大袈裟とは言えないと思っていただけるだろうか。星野さんのリストには、私が求めていたものが含まれていた。探している人が探しているものに辿り着ける。それがいちばん大切なことだ。

伊豆の闘病記図書館パラメディカは、代表の横川さんの家の一室を使っていて、壁面も玄関の一面も本に覆われている。亡くなる少し前、この大量の本を星野さんから横川さんが託されたのだ。大まかに分野ごとに分けられているが、まだすぐに探し出せる状態ではない。みんなで手分けして、力を合わせて複本を抜き出したり、病名別に細かく分けたりしている。元々が古書を扱う書店であったから、複本が多い。複本は欲しい機関に寄贈しているので、そのリストも作成しながらの手探りの状態だ。今まで、私は出来上がった図書館を改造することはあっても、一から図書館を作る作業に参加するのは初めてのことで、わくわくしている。今は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、実労働はお休み中だが、星野さんのパラメディカ闘病記リストを、再公開するための作業に取り掛かっている。

メンバーのお一人奥山さんから、元々 HP に公開されていたリストは一太郎で作成されたと聞いた。横川さん同様、生前の星野さんと交流があった奥山さんが、星野さんの話をしてくださるのを、わくわくしながら聞いてしまう。自分が実際に星野さんのリストに助けられて、多治見市図書館の闘病記文庫を作った時、とても有難いリストだけどころかちょっと使いつらいと感じていた。

そこで思い切って、HP に掲載されていたリストを元に、エクセルファイルでリストを作り直した。このエクセルファイルを元に、HP のリストも再構成しよう！となった時、「星野さんが、ずっと気にしてたのよ。自分はどうしてエクセルでリストを作らなかったのだろう、って」という話を教えてくれたのも、奥山さんだった。

星野さんのリストを初めて見たとき、「この人とはきっと気が合う！」と勝手に思っていたが、もしかしたら本当に気が合ったかもしれない。後悔役立たず、という言葉は、私の座右の銘のひとつだが。生前の星野さんにコンタクトを取らなかったことを、ずっと後悔している。たくさん話をしてみたかった。

その後悔もあって、星野さんが実際に足で集めた本に触れることが出来るだけで幸せ、さらに星野さんが大切にした本を生かす方法を考えるチームに加えてもらえるとは、今でも夢のようだ。この本とリストに、どれほど助けてもらったか。多治見市図書館の闘病記文庫を短時間で作れたのは、星野さんのリストのおかげだ。単に病名がわかるだけでなく、あのリストには思いやりがある。リストを見つけたとき、私が棚作りをするときに、いつも頭の片隅に置いている「思いやりのある棚」と同じだと直感した。

図書館にやって来る人は、小説を借りるためだけでなく、探し物があってやって来る人もいる。探し物は、人には知られたくないことだってある。その人が誰かに聞かなくても、ひとりでも探し物に辿り着ることが出来るような棚、そこに行けば多くの情報を得られるような棚、情報を自分の力で選び取ることが出来るような棚。小さなお手伝いが出来ることが、何よりだと思う。星野さんのリストには、短いコメントがつけられている。このコメントがまた淡々としていてよい。少ない字数の中に、大切なことが込められていると感じる。『闘病記専門書店の店主が、がんになって考えたこと』¹⁾ は星野さん自身の闘病記でもあるが、様々な闘病記と出会えるブックガイドでもある。そして、闘病記が反面教師であることも、きちんと伝えている。その人には、その人にしかない生き方がある。人生が型にはめたように同じではないことは、誰もが知っていることだろう。病気も同じ。同じ病気に罹患したとしても、治療や進行度は同じではない。それをちゃんと分かった上で、自分ならどうするか、自分はどうしたいのかを考えられるようになることが大切だと思う。自分の人生は、自分で決めるしかない。闘病記を医療健康情報の棚に置くのはふさわしくないという考えもあった。今でも「闘病記ってどうなの」という疑問を投げかけられることがある。それはご自身で考えて頂きたいと思うが、答えではないけれど、私自身は闘病記だけを置くことが公共図書館での医療健康情報サービスではないと思っている。すぐ近くに、医学書や厚生労働省や医療機関から発行されているパンフレットを置いたり、患者会の案内なども置いている。免責事項は掲げてあるけれど、それは「図書館は責任は

もてません」と突き放しているのではなく、「皆さんがご自身で考えて自分自身で情報を選び取る力を身につけて、判断してください」と伝えたかったからだ。数多くの闘病記を読んで、どの闘病記にも共通していると感じるのが「納得」ということ。勝手に「納得力」と名付けているが、どんな治療を受けようと、治療を受けないと決めたとしても、自分自身を生き抜いた人たちは、納得力を磨き上げた人たちだと思う。図書館は納得力を磨くための資料を提供したり、ささやかな手助けをしたとしても、選別したり、ましてや押し付けてはいけないのではないだろうか。

闘病記図書館パラメディカは、その名のとおり闘病記に特化している図書館だが、ほかにも「医療をめざす人へ」「医療をめぐる近代史」「葬儀を考える、献体」などのリストもある。星野さんのネーミングセンスも、自分と近いものを感じる。多治見市図書館のもうひとつの特徴であるフラッグ（見出し板）の多様性、NDC490.4の「論集」のフラッグは「医者語る」にした。NDCは大好きだけど、言葉が堅いと思う。言葉一つで身近に感じることもある。

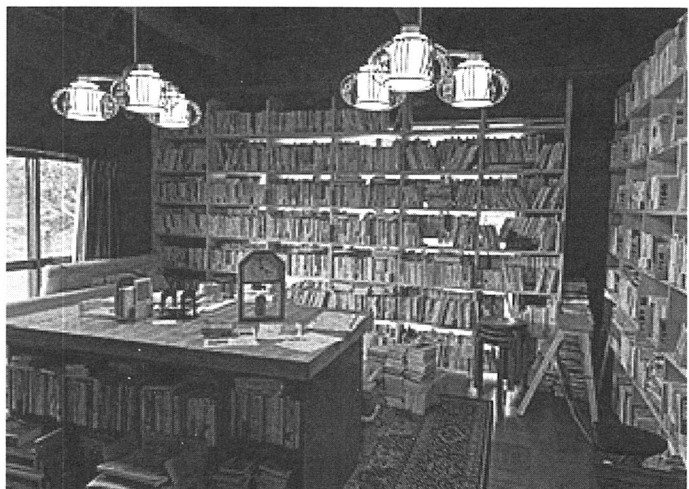
星野さんのリストは、創意工夫を重ねてみんなの力を結集して、近いうちにお披露目する予定だ。このリストに私が助けられたように、何かにつながれば幸いである。

闘病記は本の形をしているが、その中には人生が詰まっている。闘病記図書館パラメディカには、たくさん的人生が詰まっている。読むことで、病気のことを知るだけでなく、その向こう側には人に出会うという楽しみがあるのではないだろうか。肉体は滅びても、精神はずっと本の中に宿っている。本の力は、時空を超えることだと思う。図書館で開催するがんサロンも、闘病記や本を紹介するのが目的ではなく、きっかけのひとつに過ぎない。その場所で人と人が出会うことが、生きる力を与えてくれるのではないかと感じている。

闘病記が、もしも何がしかのものをもたらすとすれば、それは書いた人の人生が本の中に宿っているからだと思う。

私の話に興味を持ってくださったら、伊豆の闘病記図書館パラメディカを訪れてみてください。バリスタの薫り高いコーヒーと温かい人たちが出迎えてくれます。

最後にひとつだけお伝えしたいことがある。大学を卒業した頃は就職氷河期と呼ばれる時代の始まりだった。私自身は、自分で選んだ道だと思っているが、間違いなく社会の歪である非正規職員としての20年だった。どんなに自己研鑽を積んでも、収入には結びつかない日々。暗黒時代と自分で呼ぶ時期もあった。その中で、小さな光を灯してくれ



闘病記図書館パラメディカ

たのが、全国患者図書サービス連絡会、日本図書館協会、日本医学図書館協会の活動において、日本の図書館界の医療健康情報サービスの黎明期を支えてくださった大先輩の皆様だった。

もしも、2010年に開催された岐阜県公共図書館協議会職員研究集会「公共図書館における健康・医療情報サービス」に参加しなかったら、多治見市の公共図書館と病院図書室の連携はなかったかもしれない。あの場で、講師として参加されていた病院図書室司書さんが、県立多治見病院図書室の司書さんを紹介してくださらなければ、何も始まらなかったと思う。

もしも第1回医療・健康情報サービス研修会に参加しなければ、その後続く第100回全国図書館大会での多治見市の事例報告はなかっただろうし、第2回医療・健康情報サービス研修会で、選書の講師を務めることもなかっただろう。そしてWG委員の末席に加えて頂き、第3回医療・健康情報サービス研修会の運営メンバーとして関わることもなかったと思う。さらに言えば、こうした活動の中で様々な人との出会いがあり、人と人のご縁をつないで頂かなければ、現在の職場である病院図書室に正規職員として勤務することもなかっただろう。そして、今回ご紹介したパラメディカでの活動にもつながらなかっただろう。

私事で大変恐縮だが、自分のこれまでの経歴や活動そのもの「図書館界の先人たちが伝えてくださったことを学び、吸収し、消化し、還元する」ことこそ、公共図書館での医療健康情報サービスのひとつの在り方、地域で働く図書館員のひとつの在り方になるのではないだろうかと自負している。私だけでなく、先人たちが道を拓いてくださった医療健康情報サービスの活動に影響を受けた人たちが、それぞれの場所で自分が果たすべき役割、その土地での医療健康情報サービスの在り方を実行して、全国の公共図書館に輪がどんどん広がっていると信じている。それは、患者さんのために必要なサービスであり、つまりは地域に暮らす人たちのために必要なサービスでもある。

医学図書館関係者と公共図書館関係者そして患者会の皆様が力を合わせて、全国の図書館員に向けて学びの門戸を開いて下さったことが、どんなに素晴らしいことだったのか。日本の図書館界に与えた影響の大きさについて、もっと広く知られていてもよいことだと常々思っているが、当事者の皆様は謙虚な方々が多いので、僭越ながらお伝えさせて頂いた。

末筆ではありますが、今回このように自由に書きたいことを書かせてくださった、全国患者図書サービス連絡会事務局の皆様に、心より御礼申し上げます。

参考文献

- 1) 星野史雄, 闘病記専門書店の店主が、がんになって考えたこと, 東京:産経新聞出版; 2012

<エッセイ>

ロンドン聖トーマス病院の

Knowledge and Information Centre

愛知淑徳大学名誉教授

山崎 茂明

異なる場所や、過ぎ去った時間とともに、ばらばらに記憶されていたものが、ある時、偶然の手助けを得て、自由に結びつくことがある。また、同じ場所へ旅をしたとき、長く忘れていた言葉を見つけ出すことがある。ロンドンのセントトーマス病院の Knowledge and Information Centre に関する紹介です。

1. 初めてのロンドン

振り返ってみると、ロンドンを初めて訪問したのは、1988年の6月、スイスのバーゼルで開催されたヨーロッパ科学編集者会議で発表し、帰路にエジンバラ、ヨーク、ロンドンと旅した時である。ロンドンでは、英国医師会図書館を訪問し、館長のライトさんから、1948年に創設されたNHS (National Health Service) が、動きの悪い巨象になっているという話題から話してくれた。公平な医療制度をすべての住民が受容できるように、NHS制度を改良し維持していくことが求められる。GP (General Practitioner: 家庭医、かかりつけ医) の制度化、予防医学と一般の人々への医療情報 (CHI: Consumer Health Information) の提供システムを強化することで、医療費の増大をコントロールするといった視点で考える必要がある。

個人的には、学術雑誌に関心を持っていると伝えると、BMJとLancet誌の対立や、BMJ誌が内科医を対象とした雑誌であり、一方1823年に創刊されたLancetは外科医を中心とした総合医学誌であった。BMJの死亡記事欄に外科領域の医師が掲載されるようになったのは戦後になってからであったこと。ライトさんは日本への関心を持ち、1964年の東京オリンピック、そして1985年の第5回国際医学図書館員会議 (東京大会) にも参加されていた。

当日のホテルの予約はまだと伝えると、二つの宿を教えてくれた。私はライトさんがお金にゆとりがあるときに泊まるという、BMAハウスから歩いて1分のタビストックホテルに宿泊した。その後、このタビストックホテルはロンドンでの定宿になった。なお、ライトさんは秋に定年を迎えるとのことであり、彼の個人所有であった“World Medical Periodicals” (1961) を贈呈してくれた。

それにしても、ライトさんが医学系図書館の説明を、公平な医療制度として構想されたNHSへの協力という視点から話されたことは重要である。

2. 過去を振り返る

2004年の秋、学内研究助成を得て、総合医学雑誌 Lancet の創刊者トーマス・ウエイクリー (1795-1862) の事跡調査を行った。特に、生誕の地 (Land Farm, Axminster, Devon) とロンドンのケンズール・グリーン墓地などを訪問した。創刊者ウエイクリーの人物像を明らかにしたいと考えた。彼が洗礼を受けたメンベリーの教区教会、生誕の地と現在も使用されている生家、そして直系の人々との面談がプランされていた。この生誕の地をめぐる調査は、地元のエバンズ医師が全面的に協力してくれた一方、ロンドンでの墓地調査は、単独で行わなければならない、カタコムと呼ばれている地下墓地であり、情報も少なく順調に行くかどうか心配でもあった。しかし、現地を訪れたことで、重要な資料や文献だけでなく、地方史や個人誌などの論稿が入手できた。さらに、ウエイクリーの直系であるスーザン・スプラーギュさんの自宅を訪問し挨拶をした瞬間、ウエイクリーが実在の人物であったことを納得できた。調査のめどが立ち、まとまりそうな感触が得られたので、気になっていたナイチンゲール博物館やディケンズ博物館を、訪ねてみることにした。

2004年9月10日の午後、地下鉄 Westminster 駅で降り、テムズ川を渡り、ナイチンゲール博物館を見学した。フローレンス・ナイチンゲール (1820-1910) を白衣の天使といった人物像だけでとらえることは適切ではない¹⁾。衛生医療領域を対象にした統計専門家として社会改良に献身した人と考えられる。そして、看護ケアの専門職を育成するために、1860年にイギリスで最初の看護学校を、セントトーマス病院内に開設した。このセントトーマス病院は、テムズ川に沿って建設された大規模慈善病院であるが、同時にイギリスを代表する医育機関でもある (図1)。2020年4月、ジョンソン首相がコロナウイルスに感染し7日間入院したが、セントトーマス病院の高い専門性を持った臨床チームの治療により政務に戻ることができたというニュースが流れた。セントトーマス病院からテムズ川に目をやると、国会議事堂が対岸に眺められる。

3. 患者図書室の新展開

ナイチンゲール博物館の見学を終え、時計を見ると、ホテルに戻るには早すぎるので、病院内を散策してみることにした。ビルの北側が正面玄関になっており、ボランティアによる案内デスクがあった。患者図書室はあるか尋ねてみると、Knowledge and Information Centre (KIC) を紹介してくれた²⁾。玄関を入ると、ふたつのレストラン、三つの24時間オープンしているカフェ、マークス&スパンサー (イギリスの名店スーパーマーケット)、服飾店、WH Smith (ペーパーバック・新聞・雑誌・カード・ドリンク・スナック)、美容室、キャッシュコーナーなどが配置されていた。病院というより、ホテルのロビーやショッピングセンターに入った気分である。この一角に、KICがあった。予約のない突然の訪問であったが、対応してもらえた。

KICは、Knowledge Information Centreの略名であり、ガイ・セントトーマス慈善団体が資金を提供している。「患者への知識と情報サービスセンター」と呼べる。用意されたリソースは、以下のものである。

KIC は、伝統的な図書・ビデオ・リーフレットといった情報に加え、新しいインターネット資源を加え、さらに専門家から直接の支援や助言を得られる³⁾。また、患者の読書を支援するスクリーンリーダーが備えられており、他者に頼ることなく患者個人の文書を拡大して読むことができる。さらにテキストの音声変換も可能である。

KIC で見た患者向けのリーフレットは、前年の 2003 年にイギリスのバースで開催されたヨーロッパ科学編集者会議で泊まったホテルに近いバース中央図書館にあった。私は日本からの電子メールを読むために中央図書館を利用していた。その時、入口付近に置かれていたパンフレット展示架に、「Patient Leaflets」が、透明のビニール袋に疾患別に入れられていた。利用者は、関心のある疾患のリーフレットを袋ごと自由にピックアップしていた。リーフレットの編集制作は、製薬企業が資金を出していても、患者会や友の会、慈善団体などが中心となり作成されている。市民へ医療消費者健康情報を流すために、公共図書館との協力は欠かせない。

現在の KIC がどのように運営されているか、明確ではないので、電子メールで問い合わせを試みたが、返信はもらえなかった。北棟 1 階の玄関エリアに 11 台の PC を KIC で用意している。ニュースを見たり、新聞を読んだりするためのリラックスできるスペースも確保されている。

参考資料

- 1) St Thomas' self-guided tour. Guy's and St Thomas' Hospital NHS.
- 2) Florence Nightingale Museum. WWW.florence-nightingale.co.u
- 3) It's all in the KIC. Guy's and St Thomas' Hospital NHS.

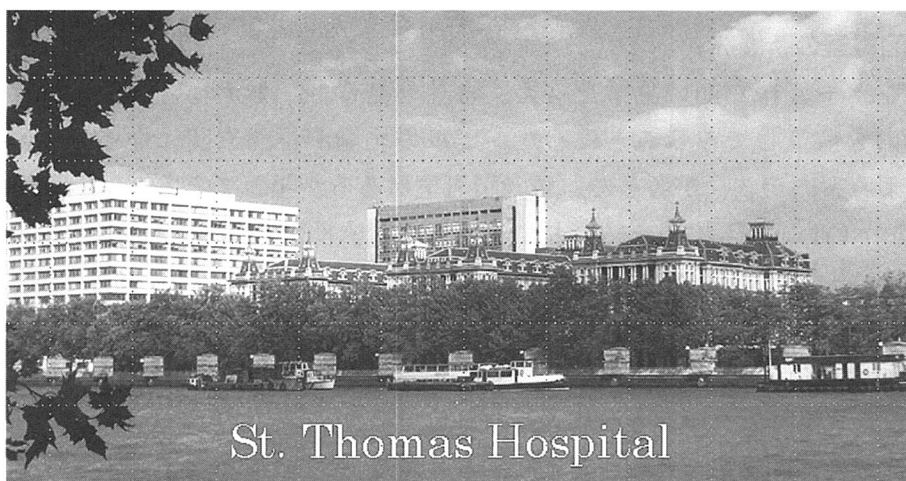


図 1 国会議事堂側からセントトーマス病院を見る (2004 年 9 月 10 日)

〈おしらせ〉

2019 年度決算報告

収入の部			
費目	収入	内訳	備考
前年度繰越金	405,198		
2019 年度会費	140,000		35 人分
2018 年度会費	4,000		1 人分
賛助会員費	60,000		
広告料	10,000		
雑収入	604		
講演会参加費	18,000		会員 14 人 非会員 2 人 学生 2 人
合計	637,802		
支出の部			
費目	支出	内訳	備考
会報発行費	104,795		
会報印刷		36,828	25 巻 1 号
		46,222	25 巻 2 号
会報発送費		8,905	25 巻 1 号
		12,840	25 巻 2 号
講演会費	133,140		
講師謝礼		100,000	
講師懇親会		15,000	
講師交通費		18,140	
役員会費	27,560		
会場費		11,800	
交通費		15,760	
事務局費(消耗品)	19,977		封筒、ラベル、コピー、郵送費
次年度繰越	352,330		
合計	637,802		

2020 年度予算計画

収入の部			
費目	収入	内訳	備考
前年度繰越金	352,330		
2020 年度会費	200,000		50 人分
2019 年度会費	0		
賛助会員費	60,000		
広告料	10,000		
雑収入	0		
講演会参加費	20,000		
借入金	0		
合計	642,330		

支出の部			
費目	支出	内訳	備考
会報発行費	110,000		
会報印刷		40,000	26 巻 1 号
		40,000	26 巻 2 号
会報発送費		15,000	26 巻 1 号
		15,000	26 巻 2 号
講演会費	150,000		
講師謝礼		100,000	
講師懇親会		20,000	
講師交通費		30,000	
役員会費	30,000		
会場費		15,000	
交通費		15,000	
事務局費(消耗品)	20,000		封筒、ラベル、コピー、郵送費
予備費	332,330		(繰り越し予定額)
合計	642,330		

全国患者図書サービス連絡会会報投稿規定

1. 本会会員（購読会員を含む）は誰でも投稿できます。
2. 本会報は、患者図書サービスをめぐるいろいろな話題や問題、そしてこれらと関係する論文、報告、資料などを掲載します。
3. 投稿原稿の採否は、役員会で決定します。
4. 投稿原稿の長さは問いません。
5. 投稿原稿の執筆・提出要領は次の通りです。
 - ① 原則としてWord形式で作成してください。
 - ② 表紙頁には標題、著者名、所属を明記し、更に、主執筆者の所属、郵便番号と住所、電話番号、FAX 番号、メールアドレス等を明記してください。
 - ③ 外国人名は原語表記または、適当な日本語表現で表記してください。
 - ④ 原稿に付随する図や、表、写真は図1、表1、写真1などの番号を付け、本文とは別に添付し、本文原稿の欄外にそれぞれの挿入希望位置を指定してください。またそれらは、スキャナを使ってパソコンに取り込んで印刷しますので、なるべく鮮明なものをつけてください。原稿も含め、投稿されたものは原則的にお返ししませんので、貴重な写真などはなるべくコピーをとってください。どうしても返却を希望される場合は、その旨お伝えください。
 - ⑤ 参考文献の記載様式：
 - i) 記載順序は出処順としてください。
 - ii) 逐次刊行物：著者、論文名、誌名、出版年；巻数（号数）：開始頁—最終頁。
 - iii) 単行本：著者、章の見出し、編者名、書名、版表示、（シリーズ名；シリーズ番号）、出版地；出版者；出版年、開始頁—最終頁。
6. 著作権は、全国患者図書サービス連絡会に帰属します。転載などを希望する場合は本会事務局にお問い合わせください。
7. 原稿送付先：info@kanjatosho.jp

(2017.11.18 改訂)

[編集後記]

26 巻 1 号（通巻 85 号）をお届けします。

新型コロナウイルス感染拡大防止をめざして発出された緊急事態宣言は解除されましたが、第 2 波とみなされるようなクラスターも発生しています。読者の皆様には、このようななか、病院や公共図書館などで緊張の毎日を送っている方もあれば、また、複雑な心境で自宅待機中の方もおられるかと思えます。

本号は、5 人の方に執筆をお願いしました。連載の患者図書室訪問は休載にしました。

(編集子)



電子ジャーナルホスティングサイト

PierOnline ピアオンライン

PierOnlineは国内の学術出版社が発行する医学・薬学・看護系の学術誌を電子ジャーナルとして提供するホスティングサイトです。ご利用は1論文からPayPerView購入が可能です。

メディカ出版 25タイトルを1論文単位でPayPerView購入できます！



- ・インфекションコントロール
- ・Emer-Log
- ・オペナーシング
- ・眼科グラフィック
- ・眼科ケア
- ・サーキュレーション・アップ・トゥ・デート
- ・みんなの呼吸器Respica
- ・スマートナース
- ・整形外科サージカルテクニック
- ・産業保健と看護
- ・消化器外科ナーシング
- ・ナーシングビジネス
- ・整形外科看護
- ・ニュートリションケア
- ・赤ちゃんを守る医療者の専門誌 with NEO
- ・透析ケア
- ・ハートナーシング
- ・糖尿病ケア
- ・バスキュラー・ラボ
- ・ブレインナーシング
- ・YORi-SOUがんナーシング
- ・脳神経外科速報
- ・ペリネイタルケア
- ・リハビリナース
- ・泌尿器Care&Cure Uro-Lo

その他、PierOnlineには価値ある雑誌を多数収録！

- ▶ 癌と化学療法社「癌と化学療法」 ▶ 最新医学社「最新医学」
- ▶ 南江堂（南江堂オンラインJournal）「外科」「内科」「胸部外科」「整形外科」「別冊整形外科」「がん看護」 ▶ メディカルレビュー社「PharmaMedica」 ▶ 医歯薬出版「医学のあゆみ」
- ▶ ライフサイエンス出版「薬理と治療」「TherapeuticResearch」 ・・・

*ご利用の多い雑誌を1誌単位で年間購読も可能です。
 *メディカ出版全誌パッケージのお得な価格もご用意しております。
 *本文を対象とした全文検索が可能です。

SUNMEDIA 株式会社サンメディア e-Port

本社 〒164-0012東京都中野区本町 3-10-3 PORTビル
 Tel : 03-3299-1575 Fax : 03-3374-1410

e-mail : e-port@sunmedia.co.jp

大阪オフィス 〒550-0003大阪市西区京町堀 1-3-3 肥後橋パークビル 4F
 Tel : 06-6444-7720 Fax : 06-6444-7730



国内最大級の医学文献情報データベース

医中誌 Web Ver.5

デモ版 <https://demo.jamas.or.jp/>

Database Interface Link Customize

国内発行の医学・歯学・薬学・看護学等の定期刊行物のべ約7,000誌から収集された膨大な医学文献情報をインターネットで検索できます。検索対象は1959年から最新データまで約1,300万件。

直感的に検索できる検索インターフェース（PCおよびモバイル）をご用意しています。また、医学用語シソーラスや検索履歴を使い、より適合性の高い検索結果を得ることができます。

医中誌Webから電子ジャーナルや全文PDF等のフルテキストサービスにリンクしている件数は370万件、うち130万件は無料で公開されています(2019年7月現在)。また、図書館システムとのリンクも行えます。

大学・病院・企業・公共図書館などそれぞれの環境に応じたご利用機関ごとのカスタマイズ、「My 医中誌」による個人ごとのカスタマイズが行えます。

法人向け「医中誌 Web」

1年間の固定料金制。同時アクセス数2で250,000円(税抜)～
 同時アクセス数上限の無いプランもございます。

個人向け「医中誌パーソナルWeb」

1ヶ月8時間利用で2,000円(税抜)～

特定非営利活動法人 **医学中央雑誌刊行会** <https://www.jamas.or.jp/>



〒168-0072 東京都杉並区高井戸東2-5-18

TEL : 03-3334-7625 FAX : 03-3335-3327 E-MAIL : info@jamas.or.jp



UNIVERSAL THEATER

夢の ユニバーサル シアター

平塚千穂子

映画の世界に新たな光をくれた
この“光”がたくさんの人々の
元にとどきますように

映画監督 河瀬直美

A 5判・248ページ 定価：本体2,000円＋税
ISBN：978-4-902666-37-3



夢のユニバーサルシアター

平塚千穂子 著

目が見えなくても映画を楽しめるツール「音声ガイド」。

音声ガイドの制作者であり、日本初のユニバーサルシアター「シネマ・チュプキ・タバタ」の創設者でもある著者・平塚千穂子が、さまざまな壁を乗り越えてたどり着いた、誰もが楽しめる新しい映画鑑賞の形、映画館のあり方について提案します。

もくじ

CHAPTER 1

シネマ・チュプキ・タバタができるまで

CHAPTER 2

制作者とモニターが語る音声ガイド

CHAPTER 3

音声ガイドで読む映画『ローマの休日』とガイドづくりのポイント

有限会社 読書工房

〒171-0031 東京都豊島区目白3-13-18 ウイング目白102

電話：03-5988-9160 ファックス：03-5988-9161

Eメール：info@d-kobo.jp <https://www.d-kobo.jp/>

全国患者図書サービス連絡会会報

ISSN 1344-2937

第26巻 第1号 (通巻85号) 2020年6月30日発行

発行所：全国患者図書サービス連絡会 (<http://kanjatosho.jp/>)

株式会社 北杜社

〒212-0033 川崎市幸区東小倉8-15

印刷所：株式会社 中島印刷所

〒232-0026 横浜市南区二葉町4-39